

タブレット活用へ 教員が扱い方学ぶ

富山大附属小

富山

タブレット端末を授業に活用するプロジェ

クトが28日、富山市五艘の富山大附属小学校(根岸秀行校



タブレット端末の撮影機能を試す教員

長)で始まった。教員が扱い方を学び、授業への生かし方を考えた。

プロジェクトは、同大人間発達科学部の高橋純准教授(情報教育)がリーダーを務め、同校と芝園小で実施す

る。教育ソフト開発のチエル(東京)などのメーカーから端末やソフトの提供を受けた。児童が1人1台ずつ使えるよう附属小には46台を導入し、10月に授業を始める予定。28日は同校の教員約20人が模擬授業に参加した。メーカ

の担当者から写真や動画の撮影、ペンを使って算数の問題の回答を書く方法などを教わった。鼎裕憲教諭は「動画撮影機能を使えば、体育で児童が体操する様子を確認できて改善点が分かりやすくなる」と話した。